

サプライチェーンマネジメント

基本的な考え方

JSRグループでは、経営基盤におけるマテリアリティ（重要課題）の一つに「サプライチェーン」を掲げています。お客様のニーズに合った「革新素材」「良い製品」を提供し、より良い社会の実現に貢献していくことは、JSRグループの重要な役割です。そのためには、持続可能なサプライチェーンを構築し、健全な調達先から安定的な調達を継続できるよう取り組んでいきます。

CSR調達

サプライチェーンマネジメントの発展がお取引様とJSRグループの相互繁栄につながるとの考えのもと、「JSRグループCSR調達方針」を制定し、6分野36項目の遵守をお取引先様にお願いしています。

さらに2021年度からは、社会からの要請やJSRグループの考え方をさらに確実に共有するため、JSRグループのCSR調達方針および人権方針に対する賛同書を回収する取り組みを始めました。海外グループ会社を含む各拠点の購買担当者に対して説明会を開催の上、回収率100%を目指し、グループ全体で取り組みました。2022年度末時点の回収率は90%となりました。比較的回収率が低かった海外のグループ企業において、サプライヤーへの働きかけに注力しています。

ゴール JSRグループCSR調達方針および人権方針配布後の賛同書回収率 100%

賛同書回収率90% (2022年度)

ゴール RMIテンプレート回収率100%

88% (2022年度)

お取引先様の評価

当社の調達評価基準へのお取引先様の適合状況を定期的に確認しています。新規取引の候補先については、財務状況や品質管理レベルなどを評価するとともに、取引開始前に安全・環境・品質に関する実地監査を行います。継続した取引関係にあるお取引先様についても、新規取引の際と同様の基準で適宜、再評価を実施します。

特に有事の調達難易度が高い重要原料に関しては、定期的な監査を行い、供給継続性に関わる事項の実地確認や品質安定化に向けた提案、指導を行っています。

責任ある鉱物調達への対応

JSRグループは、サプライチェーンにおいて人権への負の影響を生じさせるリスクが高い対象鉱物（紛争鉱物であるスズ、タンタル、タングステン、金に加え、コバルト、マイカを含む）について、JSRグループ購買指針に基づき、直



詳細は、サステナビリティサイトをご参照ください。
<https://www.jsr.co.jp/sustainability/society/supplychain.shtml>

接的および間接的な使用も一切認めないという考え方のもと、これらの不使用を確認しています。

2015年度に、紛争鉱物の使用有無に関する調査を実施し、以降も、新規原料や新規サプライヤー採用時には調査を行っています。このほか、近年ではコバルトやマイカ（雲母）採掘時における児童労働などの人権侵害への懸念が高まっている状況を踏まえ、2022年度はこれら対象鉱物の使用状況を再確認するため、RMI (Responsible Mineral Initiative) が提供する世界標準のテンプレートをを用いた調査を実施しました。対象鉱物を使用している可能性のある国内外のサプライヤーのうち、88%から回答があり、対象鉱物の不使用もしくは問題のない精錬業者から調達されていることを確認しました。

調達担当者の教育と研修

CSR調達や紛争鉱物への取り組みをテーマとした購買部門担当者への教育と研修にも注力しています。

新たに購買部門に配属された担当者には、JSRグループ購買指針の十分な理解を促す導入教育を実施しています。また、担当者のさらなる知識習得を促すため、一般社団法人日本能率協会が認定するCPP資格 (Certified Procurement Professional、購買・調達分野における専門的な知識を身につけていることを証明する資格) の取得を奨励しており、講習会への参加費用や受験料を会社負担とするなどの支援も行っています。